

科目名	人材マネジメント論特講	担当者	スズキ リョウタ 鈴木 亮太	期間	通年	単位数	4
-----	-------------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	組織運営の根幹は人材の協働にある。組織の運営に当たっては、どのように人材を掌握して組織の中に活かしていくか、組織の目的や戦略との整合を図っていくか、さらにはどのように育成していくか、といった観点がマネジメントの重要な課題となる。経営環境も変化を重ねる中で、より目的に合致した組織を構築するために組織行動論を学び、現実の組織運営への適用、応用について検討することが本科目の目的である。		
到達目標	<p>【一般目標（GIO）】 世界の現状を理解し、説明する力：個別事象の底流にある本質を捉えることができる 問題発見・解決力：捉えた本質の中から議論すべき問題を抽出し解決策を提示することができる コミュニケーション能力：抽出した問題について建設的な議論を重ねることができる</p> <p>【行動目標（SBOs）】 企業をめぐる人材マネジメントの諸問題について把握し、個別企業が採用している方法、行動の背景を理解することができるようになること</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 一つのレポート作成にあたり基本教材と参考文献の読み込みに 25 時間以上、レポートの提出・再提出に 20 時間以上を目安とする。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 manaba-folio を活用してインタラクティブな指導を実施する。</p> <p>【学修方略（LS）】 課題に対処するにあたり、提示されたテキストに留まらず、独自に資料を探索、活用すること。また外部資料を引用するだけでなく、自らの独自性、独創性を付加して提示することが望ましい。</p>		
スケジュール	提出期日は manaba-folio ならびに学事暦記載の通り。 提出期限までに複数回レポートを交換し、考え方、論旨などを推敲する必要があるため、前後期とも課題提出 1 ヶ月前までに初回稿の提出を行うことが望ましい。		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	① 教材の内容を習得し、その考えを踏まえて解答しているか ② 自らの問題意識を伝達できているか ③ 教材以外の資料・情報を広く活用して解答しているか
	平常評価	20%	① 期限までに複数回のレポート交換ができているか ② 途中稿・最終稿の提出期限が守れているか
履修者への要望	<p>各課題に解答するにあたって、どのような点を本質的に理解しているかを求められているかを充分掘り下げてほしい。抽象的な思考、理論的考察と、現実に発生している問題の双方に留意しながらレポートを作成してほしい。</p> <p>基本教材 1 と 2 は、並行して読み解くことで相互の理解が深まることが期待できるものなので、基本教材 2 についても、早期に一読してほしい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 佐藤剛 教材名： 『グロービスMBA組織と人材マネジメント』（ダイヤモンド社，2007年） ISBN:978-4-47-800321-3 2,800円+税
	本書は、経営組織と人材マネジメントの関係の理解を進めるための入門書であり、人材マネジメント論の全体像の把握に活用してほしい。
参考図書	久米是志 『「ひらめき」の設計図』（小学館，2006年） ISBN:4-09-387660-6 1,700円+税 フィル・ナイト 『シュードッグ』（東洋経済新報社，2017年） ISBN:978-4-492-04617-3 1,800円+税
履修上のポイント	経営組織における人材マネジメントの基本的な考え方、現代における組織運営上の問題点について理論面で縦軸を構築し、自分が経験している具体的な事例をその理論と照合しながら理解を進めてほしい。参考図書は人材マネジメントより広い切り口で書かれているもので、具体的な事例を引き出すために例示したもので、これに拘らずに広く情報にあたってほしい。
レポート課題 1	従業員の就業意欲と経営組織が持つ目的との方向性を合致させるために、人事システムにおいて採用されている仕組みについて、その項目を挙げ、内容を説明すること。 留意点： 外形的な仕組みの記述にとどまらず、そのシステムが採用される背景や目的まで踏まえて説明することが望ましい。
レポート課題 2	経営組織が外部環境の変化に直面したり、経営戦略の方針転換を志向したりする際に、人事システムはそれに対応するかの、事例を挙げ、内容を説明すること。 留意点： 具体的に表面化した施策が、どのような理論的裏付けを持つのかを考察すること

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 教材2 スティーブン・P・ロビンス 教材名： 『[新版] 組織行動のマネジメント』（ダイヤモンド社，2009年） ISBN:978-4-47-800459-3 2,800円+税
	本書は、組織行動論の理解を深めるための専門書である。
参考図書	常盤文克 『ヒトづくりのおもみ』（日経BP社，2008年） ISBN:978-4-8222-4651-8 1,400円+税 アンドリュー・S・グローブ 『ハイアウトプット・マネジメント』（日経BP社，2017年） ISBN:978-4-8222-55-1-5 1,800円+税 リード・ホフマン他 『アライアンスー人と企業が信頼で結ばれる新しい雇用』（ダイヤモンド社，2015年） ISBN:978-4-478-06257-9 1,500円+税
履修上のポイント	組織運営においては明示的に定められるルールと明文化されていない企業文化・風土、創業者の思想といったものが相互に協同して全体像がつくられていることを理解し、人事システムを考察するにあたっての深さや幅を意識してほしい。参考図書は、後者の明文化されていない部分を掴むために例示したもので、これに拘らず広く情報にあたってほしい。
レポート課題 1	個人が組織の中で活かされるために必要な動機づけに関する理論を挙げ、その内容を説明するとともに、具体的なプログラムとして応用されている事例について説明すること 留意点： 基本教材2第II部の内容を踏まえ、組織と個人との相互関係について考察してほしい。
レポート課題 2	現在の日本企業においては、少子高齢化、グローバル化といった外部環境を踏まえて、性別、年齢、国籍、人種など様々な労働者が従業員として企業に参加しており、ダイバーシティ（多様性）を踏まえた働き方を整える必要が生じている。この労働環境からの要請と組織の対応について問題を提起し、組織行動論の観点を踏まえてその解決策について論じること 留意点： ダイバーシティを一般論と捉えるにとどまらず、実際に発生している問題について深く考察してほしい。